

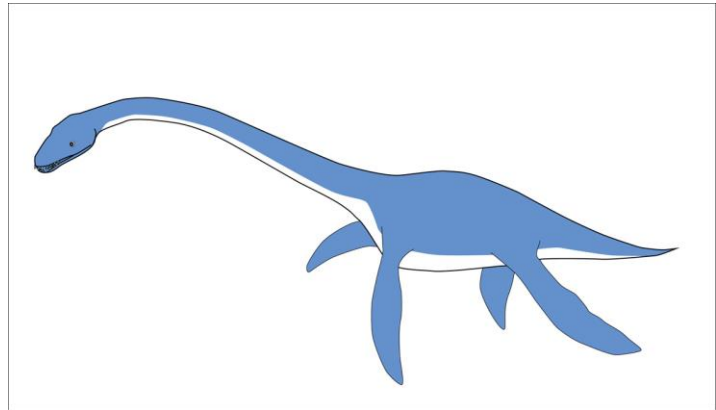
No.429

くびながりゅう 首長竜

海に生きていたハ虫類

くびながりゅう ちょうけいるい
首長竜（長頸類）は、恐竜とほぼ
同じ時代（約2億3000万年～6550万
年前）に海に生きていたハ虫類です。

くびながりゅう
首長竜は、頭が小さく首が長いプレ
シオサウルス類（右図）と、頭が大き
く首が短いプリオサウルス類に分類
されます。プレシオサウルス類は70
個以上もの首の骨をもっている仲間



もいました。ふくしまけん福島県で発見された有名なフタバズキリュウもプレシオサウルス類の仲間
です。ヒレ状の前足と後足を使って海の中を上手に泳いで、魚やアンモナイトなどを食べ
ていたと考えられています。首長竜は陸に上がって卵を産んだのではなく、卵をお腹の中
でかえし、海の中で赤ちゃんを産んだと最近の研究で考えられています。

富山市から発見されたくびながりゅう首長竜化石

富山市八尾町の約1億6000万年前のてとりそうぐん手取層群という地層から
くびながりゅう首長竜の歯の化石が発見されています（右写真）。その歯の化石は
長さ約35mmで、先に向かってゆるく曲がり、表面に細い筋があります。これはプレシオサウルス類の歯化石と考えられています。富
山県内では他に朝日町の約1億9000万年前の地層からもくびながりゅう首長竜の
歯化石が発見されています。どちらも当館1階「とやま時間のたび」
に展示されていますので、ぜひご覧下さい。

（藤田将人）

